

印刷業界における作業環境の変化と対応 〜印刷用フィルムデータの交換のお勧め〜

小俣 直包
(株)プラン 常務取締役

デスクリーニングの必要性

近年、パソコンの進歩は目覚しく、各方面で運用されています。我々の印刷業界の中においても、今までの製版プロセスを根底から覆し大きな影響を与えています。現在では製版という言葉さえ聴きません。

デジタル化による良い面は多々あり、時代や世の中の流れで、デジタル化の波はますます大きく、早く進むことと思います。

アナログとデジタルの転換は、電車の時刻表のように何月何日で一斉に替わるものではありません。ある程度の時間をかけ、アナログの不要なものは処分し、また、アナログで必要なものはデジタルでも使えるような仕組み

みを作り上げていかなければならないと思います。

今までのアナログのプロセスで製造され、使われていたフィルムなどの活用をどのようにデジタルプロセスに繋げていき、製作したフィルムなどの情報、財産を利用していくかが大きな問題点だと思います。

記載していますように、印刷用ポジフィルムはアナログ処理でPS版を使い印刷用版を作成〔刷版〕しています。現在主流となっているCTPの刷版製作は印刷用ポジフィルムではできません。この仕組み作りは印刷業界だけではなく、お得意様と一緒に仕組みを作り上げることが大切だと思います。

こういうことから現業に目を向けて、現場環境、機械環境、業界の変動などを掘り下げ

刷版の問題点

今までのPS版のプロセスは現像処理などが必要なため、常に環境対応が必要とされています。そして、出版関係の印刷、プリプレス現場では日常的に重版印刷を行っていますが、それら以外の印刷現場での重版は少なく、新しくデータを作り、データからフィルムレスでCTPで出力、印刷の工程で印刷物を製作しています。

新しい若い技術者はPS版の現場ではなく、CTPのオペレーションを覚え、どの職場でも高齢化の波をかぶって、フィルムの見当合わせもできにくくなってきています。

2011年の市場調査でも、PS版とCTP版の使用率の違いは大きな差で表されています。結果、PS版の購入費の高騰に繋がっています。

ハードなどの問題点

今までのアナログ製版に必要であった色々な機器、スキャナ〔ドラムスキャナ・フラットベッドスキャナ〕・刷版用焼き枠・自動植版機・製版カメラ・現像機器・プリンター・自動校正機など記載しきれない機器が製造中止、販売停止になっていて、現在稼働している機器が壊れた時点で作業ができないという環境が多く発生しています。

印刷業界全体の状況

上記しましたが、印刷全体としてみた場合の重版の比率は少なく、DTPでデータ作成しフィルムレスでCTP出力の流れが多く、その結果、PS版の使用量の減少にもなっています。

今までのアナログの財産をこれからも活用できる形にする、つまりデータ交換の仕組み作りを是非お得意様とともに構築して下さい。結果として、省資源、環境など、いろいろなところでお互いのメリットが見出せると思います。

データ交換のメリット

お得意様…いつまでも印刷が可能・海外版権譲渡対応・データ拡大縮小運用の広がり・

てみたいと思います。

フィルム関連の問題点

ご存知のように、すでに何年前に修正用ストリップフィルムは生産、販売されなくなりました。製版現場〔製版專業業者〕も少なくなり、使用される製版フィルムも減少し、製造メーカーは二社程度となりました。フィルムの価格も上昇しています。

従来イメージセッターでフィルム出力していましたが、この工程も直接CTPに移行し、イメージセッター用のフィルムの生産、販売も少なくなってきました。製版現場でも高齢化が進み、あと数年で作業ができなくなってしまうところが多く発生すると思います。

データベース化で財産の保全・印刷精度の向上・デジタル対応、など。

印刷現場・フィルムの保管、管理の負荷の低減・検索の負荷の低減・フィルム保管経費の削減・得意先とデータの共有化で繋がり確保・印刷精度の向上・印刷製品の安定化・CTPの稼働率のアップ、など。

データ交換サービスを提供

大村製本グループの(株)プランは、印刷用ポジフィルム・ネガフィルムをスキャニングしてデジタルデータに変換するデスクリーニングソフトとスキャナ「OMATA-SCANNER」を開発するとともに、印刷用ポジフィルム・ネガフィルムのデータ交換サービスを行っています。また、マイクロテック社のスキャナ代理店でもあります。是非HPをご覧ください。

【(株)プラン】

▽所在地 〓〒369-10306 埼玉県児玉郡上里町七本木三田 3705
▽電話 〓0495-33-8489
▽ファックス 〓0495-33-2895
▽URL 〓 <http://www.kanizawa.jp>



小俣 直包
常務取締役